

AX3600S

AX3640S ・ AX3630S ソフトウェアマニュアル

訂正資料

(Ver. 11.10 以降対応版)

■ はじめに

本資料は、AX3640S・AX3630Sソフトウェアマニュアル (All Rights Reserved, Copyright(C), 2005, 2012, ALAXALA Networks, Corp.)の訂正内容について説明するものです。本装置のマニュアルを読む場合は、この資料もあわせてお読み下さい。本資料の対象となるマニュアル一覧を以下に示します。

項番	マニュアル名称	マニュアル番号	発行
1	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S001-H0	2012年12月
2	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S002-H0	2012年12月
3	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションガイド Vol.3 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S003-H0	2012年12月
4	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S004-H0	2012年12月
5	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S005-H0	2012年12月
6	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S006-H0	2012年12月
7	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル 運用コマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S007-H0	2012年12月
8	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S008-H0	2012年12月
9	AX3640S・AX3630S ソフトウェアマニュアル MIB レファレンス (Ver. 11.10 対応版)	AX36S-S009-H0	2012年12月

■ 商標一覧

Ciscoは、米国Cisco Systems, Inc.の米国および他の国々における登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

IPXは、Novell, Inc.の商標です。

Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Octpowerは、日本電気(株)の登録商標です。

RSA, RSA SecurIDは、RSA Security Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

sFlowは、米国およびその他の国における米国InMon Corp.の登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの米国ならびに他の国における登録商標です。

VitalQIP, VitalQIP Registration Manager は、アルカテル・ルーセントの商標です。

VLANaccessClientは、NECソフトの商標です。

VLANaccessController, VLANaccessAgentは、NECの商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ ご注意

このマニュアル訂正資料は、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■ 発行

2014年12月発行(第5版)

■ 著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2005, 2014, ALAXALA Networks, Corp.

変更履歴

表 【第5版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S002-H0)	20.1.2 動作仕様【追加】
4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S004-H0)	[22] コンフィグレーションコマンドと動作モードの対応【訂正】
	[22] web-authentication connection-pool level【追加】
	[22] web-authentication ssl connection-timeout【追加】
	[22] web-authentication tcp-retransmission initial-timeout【追加】
	[34] snmp-server host【訂正】
6. 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S006-H0)	[34] snmp-server traps【訂正】
	[33] show loop-detection logging【訂正】
8. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S008-H0)	3.3.5 イベント発生部位= VLAN (L2 ループ検知)【訂正】

表 【第4版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S001-H0)	19.7.2 ポート間中継遮断機能使用時の注意事項【追加】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S002-H0)	6.1.1 サポート機能【訂正】

表 【第3版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S001-H0)	9.1 時刻の設定と NTP 確認【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S002-H0)	27.1.2 ポートミラーリングの注意事項【追加】
3. コンフィグレーションガイド Vol.3 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S003-H0)	1.3.3 ARP【訂正】
4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S004-H0)	[35] logging email-server【訂正】
6. 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S006-H0)	[3] telnet【追加】
	[15] show interfaces (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)【訂正】
	[15] show interfaces (1000BASE-X)【訂正】
	[15] show interfaces (10GBASE-R)【訂正】
	[15] show port【訂正】
	[15] test interfaces【追加】
9. MIB レファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S009-H0)	[15] no test interfaces【訂正】
	2.2.1 interfaces グループ(イーサネットの場合)【訂正】
	2.12.1 Ethernet Statistics グループ【訂正】
	2.12.3 Ethernet History グループ【訂正】
	2.18 powerEthernetMIB グループ(Power Ethernet MIB)【AX3630S】【訂正】

表 【第2版】に関する訂正内容

項目	追加・変更内容
1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S001-H0)	3.2.8 冗長化による高信頼化【訂正】
	3.2.9 ネットワークの障害検出による高信頼化機能【訂正】
	3.2.10 隣接装置情報の管理 (LLDP/OADP)【訂正】
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S002-H0)	3.4.1 帯域監視【訂正】
	3.10.1 優先度決定動作変更【訂正】
	3.10.2 CoS 値・キューイング優先度【訂正】
	14.4.1 概要【訂正】【追加】
	14.6 GSRP 使用時の注意事項【訂正】
	15.1.1 コンフィグレーションコマンド一覧【訂正】
	15.1.4 レイヤ3 冗長切替機能の設定【訂正】
	15.2.2 GSRP の状態の確認【訂正】
3. コンフィグレーションガイド Vol.3 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S003-H0)	7.4.2 ロードバランス仕様【訂正】
	7.4.3 ロードバランス使用時の注意事項【追加】
	7.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認【訂正】
	14.4.2 IPv4 PIM-SM【追加】
	15.1.1 コンフィグレーションコマンド一覧【訂正】
	22.4.2 ロードバランス仕様【訂正】
	22.4.3 ロードバランス使用時の注意事項【追加】
	22.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認【訂正】
4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S004-H0)	[17] flow action-change cos【訂正】
	[27] virtual-mac-learning-interval【追加】
	40.1.9 VLAN 情報【訂正】
	40.1.15 アクセスリスト情報【訂正】
5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S005-H0)	[15] ip pim accept-bootstrap【追加】
6. 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S006-H0)	[8] show system【訂正】
	[29] show gsrp【訂正】
7. 運用コマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S007-H0)	[7] show ip pim interface【訂正】
	[9] traceroute ipv6【訂正】
8. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S008-H0)	3.3.4 イベント発生部位=VLAN(GSRP)【追加】

目 次

1. コンフィグレーションガイド Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S001-H0) の訂正内容	6
2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S002-H0) の訂正内容	10
3. コンフィグレーションガイド Vol.3 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S003-H0) の訂正内容	20
4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S004-H0) の訂正内容	27
5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S005-H0) の訂正内容	38
6. 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S006-H0) の訂正内容	39
7. 運用コマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S007-H0) の訂正内容	55
8. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S008-H0) の訂正内容	57
9. MIB レファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S009-H0) の訂正内容	59

1. コンフィグレーションガイド Vol. 1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S001-H0) の訂正内容

3. 収容条件 (P21~P86)

(1) 3.2.8 冗長化による高信頼化【訂正】

「(1)GSRP (P68)」を訂正します。

【訂正内容】

訂正 → GSRP の収容条件を次の表に示します。

表 3-90 GSRP 収容条件

モデル	VLAN グループ最大数	VLAN グループ当たりの VLAN 最大数
全モデル共通	64	1024

追加

また、レイヤ 3 冗長切替機能を使用する場合には、VLAN グループに所属している VLAN に設定するポート数の合計の最大数が 5000 となります。チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で 1VLAN ポートと数えます。

「表 3-92 アップリンク・リダンダント収容条件 (P68)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-92 アップリンク・リダンダント収容条件

モデル	アップリンクポート数	アップリンクポート当たりの 収容インタフェース数
全モデル共通	25* ← 訂正	2

追加

注※

チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で 1 ポートと数えます。

(2) 3.2.9 ネットワークの障害検出による高信頼化機能【訂正】

「表 3-95 L2 ループ検知フレーム送信レート (P69)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-95 L2 ループ検知フレーム送信レート

モデル	L2 ループ検知フレームの送信レート (装置当たり) ※ ¹	
	スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol のどれかを使用している場合	スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol のどれも使用していない場合
全モデル共通	30pps (推奨値) ※ ²	200pps (最大値) ※ ³

・ L2 ループ検知フレーム送信レート算出式

$$\text{L2 ループ検知フレーム送信対象の VLAN ポート数}^{*4} \div \text{L2 ループ検知フレームの送信レート (pps)} \leq \text{送信間隔 (秒)}$$

↑
訂正

注※1

送信レートは上記の条件式に従って、自動的に 200pps 以内で変動します。

注※2

スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol のどれかを使用している場合は、30pps 以下に設定してください。30pps より大きい場合、スパニングツリー, GSRP, Ring Protocol の正常動作を保障できません。

注※3

200pps を超えるフレームは送信しません。送信できなかったフレームに該当するポートや VLAN ではループ障害を検知できなくなります。必ず 200pps 以下に設定してください。

追加 { 注※4

チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で 1 ポートと数えます。

(3) 3.2.10 隣接装置情報の管理 (LLDP/OADP)【訂正】

「隣接装置情報 (LLDP/OADP) の収容条件 (P71)」を訂正します。

【訂正内容】

隣接装置情報 (LLDP/OADP) の収容条件を次の表に示します。

表 3-100 隣接装置情報 (LLDP/OADP) の収容条件

項目	最大収容数
LLDP 隣接装置情報	52
OADP 隣接装置情報	100* ← 訂正

追加 { 注※

チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で 1 と数えます。

9. 時刻の設定とNTP (P167~P171)

(1) 9.1 時刻の設定とNTP確認【訂正】

「9.1 時刻の設定とNTP確認 (P168)」を訂正します。[Ver. 11.11.B以降]

【訂正前】

時刻は、本装置の初期導入時に設定してください。時刻は、本装置のログ情報や各種ファイルの作成時刻などに付与される情報です。運用開始時には正確な時刻を本装置に設定してください。運用コマンド `set clock` で時刻を設定できます。

また、このほかに、NTP プロトコルを使用して、ネットワーク上の NTP サーバと時刻の同期を行います。

なお、本装置は RFC1305 NTP バージョン 3 に準拠しています。

【訂正後】

時刻は、本装置の初期導入時に設定してください。時刻は、本装置のログ情報や各種ファイルの作成時刻などに付与される情報です。運用開始時には正確な時刻を本装置に設定してください。運用コマンド `set clock` で時刻を設定できます。

また、このほかに、NTP プロトコルを使用して、ネットワーク上の NTP サーバと時刻の同期を行います。

本装置は RFC1305 NTP バージョン 3 に準拠しています。

なお、本装置は NTP モード 6 およびモード 7 のパケットには応答しません。

19. VLAN拡張機能 (P315~P333)

(1) 19.7.2 ポート間中継遮断機能使用時の注意事項【追加】

「(4) ポート間中継遮断機能で遮断されないフレームについて (P325)」を追加します。

【追加】

(4) ポート間中継遮断機能で遮断されないフレームについて

ポート間中継遮断機能では、ハードウェアで中継するフレームだけを遮断します。ソフトウェアで送信するフレーム（自発、IP オプション付きパケットなど）は遮断しません。

24. IGMP snooping/MLD snoopingの解説 (P481~P499)

(1) 24.5 IGMP snooping/MLD snooping使用時の注意事項【訂正】

「(10)QoS との共存 (P499)」を訂正します。

【訂正前】

(10) QoS との共存

IGMP snooping/MLD snooping と QoS(受信側)は、同一 VLAN 内で共存できません。

【訂正後】

(10) QoS との共存

IGMP snooping/MLD snooping と QoS(受信側)は、同一 VLAN 内で共存できません。

QoS との同時動作については、「コンフィグレーションガイド Vol.2 3.1.4 フロー検出使用時の注意事項(7)ほかの機能との同時動作」を参照してください。

2. コンフィグレーションガイド Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S002-H0) の訂正内容

3. フロー制御 (P39~P80)

(1) 3.4.1 帯域監視【訂正】

「表 3-9 の後の説明文 (P60)」を訂正します。

【訂正前】

次のフレームについては、キューイング優先度変更および DSCP 書き換えのペナルティが動作しません。

- ・ MTU を超える IPv4, IPv6 パケット
- ・ TTL が 1 のフレーム
- ・ ホップリミットが 1 のフレーム
- ・ IP オプション付きのフレーム
- ・ IPv6 拡張ヘッダ付きのフレーム
- ・ 宛先不明の IPv4, IPv6 パケット

【訂正後】

次のフレームについては、DSCP 書き換えのペナルティが動作しません。

- ・ MTU を超える IPv4, IPv6 パケット
- ・ TTL が 1 のフレーム
- ・ ホップリミットが 1 のフレーム
- ・ IP オプション付きのフレーム
- ・ IPv6 拡張ヘッダ付きのフレーム
- ・ 宛先不明の IPv4, IPv6 パケット

(2) 3.10.1 優先度決定動作変更【訂正】

「優先度決定動作変更 (P74)」を訂正します。

【訂正前】

優先度決定動作変更は、優先度決定の対象となるフレームを変更する機能です。優先度決定動作変更の動作仕様を次の表に示します。

【訂正後】

優先度決定動作変更は、優先度決定対象である本装置宛てのフレームを、優先度決定の対象から外す機能です。デフォルトは、本装置宛てのフレームと本装置が中継するフレームが優先度決定の対象です。優先度決定動作変更の動作仕様を次の表に示します。

(3) 3. 10. 2 CoS値・キューイング優先度【訂正】

「表 3-17 優先度決定で変更できないフレーム一覧 (P75)」を訂正します。

【訂正内容】

表 3-17 優先度決定で変更できないフレーム一覧

フレーム種別	CoS 値	キューイング優先度	
本装置が自発的に送信するフレーム	7	3	
本装置が受信するフレームのうち次のフレーム <ul style="list-style-type: none"> • ARP フレーム • 回線テストに使用するフレーム 	5	—	}
本装置が受信するフレームのうち次のフレーム <ul style="list-style-type: none"> • 自装置宛での MAC アドレス学習の移動検出とみなしたフレーム 	2	—	
本装置がレイヤ 3 中継し、本装置が受信するフレームのうち次のパケット/フレーム <ul style="list-style-type: none"> • MTU を超える IPv4, IPv6 パケット • TTL が 1 のフレーム • ホップリミットが 1 のフレーム • IP オプション付きのフレーム • IPv6 拡張ヘッダ付きのフレーム 	2	—	} 訂正
本装置がレイヤ 3 中継し、本装置が受信するフレームのうち次のパケット <ul style="list-style-type: none"> • 宛先不明の IPv4, IPv6 パケット 	2	—	
本装置でレイヤ 3 中継するフレームのうち次のフレーム <ul style="list-style-type: none"> • 本装置でフラグメントしたフレーム • IP オプション付きのフレーム • IPv6 拡張ヘッダ付きのフレーム • ARP/NDP の未解決により本装置に一時的に滞留する中継フレーム 	3	—	

追加 → (凡例) — : フロー制御の優先度決定にて変更可能

6. IEEE802.1Xの解説 (P123~P143)

(1) 6.1.1 サポート機能【訂正】

「表 6-6 サポートする認証アルゴリズム (P127)」を訂正します。[Ver. 11.11.C 以降]

【訂正内容】

表 6-6 サポートする認証アルゴリズム

認証アルゴリズム概要	認証アルゴリズム概要
EAP-MD5-Challenge	UserPassword とチャレンジ値の比較を行う。
EAP-TLS	証明書発行機構を使用した認証方式。
EAP-PEAP	EAP-TLS トンネル上で、ほかのEAP 認証アルゴリズムを用いて認証する。 2種類の認証方式に対応 (1) PEAP-MS-CHAP V2 : パスワードベースの資格情報を使用した認証方式 (2) PEAP-TLS : 証明書発行機構を使用した認証方式
EAP-TTLS	EAP-TLS トンネル上で、他方式(EAP, PAP, CHAP など) の認証アルゴリズムを用いて認証する。

13. DHCP snooping (P307~P333)

(1) 13. 1. 7 DHCP snooping使用時の注意事項【訂正】

「(2)QoS との共存 (P320)」を訂正します。

【訂正前】

(2) QoS との共存

端末フィルタと QoS (受信側) は、同一ポート内で共存できません。

【訂正後】

(2) QoS との共存

端末フィルタと QoS (受信側) は、同一ポート内で共存できません。

QoS との同時動作については、「コンフィグレーションガイド Vol.2 3.1.4 フロー検出使用時の注意事項(7)ほかの機能との同時動作」を参照してください。

14. GSRPの解説 (P335~P361)

(1) 14. 4. 1 概要【訂正】【追加】

「(2)デフォルトゲートウェイの MAC アドレス (P351)」を訂正します。[Ver. 11. 11 以降]

【訂正前】

(2) デフォルトゲートウェイの MAC アドレス

GSRP で冗長化するデフォルトゲートウェイの MAC アドレスは GSRP のプロトコル専用の仮想 MAC アドレスを使用します。仮想 MAC アドレスは、VLAN グループ ID ごとに異なるアドレスを使用します。

マスタ状態の装置は、下流の LAN スイッチに仮想 MAC アドレスを学習させるために、仮想 MAC アドレスを送信元 MAC アドレスとした GSRP 制御フレームを定期的を送信します。

【訂正後】

(2) デフォルトゲートウェイの MAC アドレス

GSRP で冗長化するデフォルトゲートウェイの MAC アドレスは GSRP のプロトコル専用の仮想 MAC アドレスを使用します。仮想 MAC アドレスは、VLAN グループ ID ごとに異なるアドレスを使用します。

マスタ状態の装置は、下流の LAN スイッチに仮想 MAC アドレスを学習させるために、仮想 MAC アドレスを送信元 MAC アドレスとした GSRP 制御フレーム (仮想 MAC アドレス学習用フレーム) を定期的を送信します。

「(3) 仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信 VLAN ポートと送信レート」を追加します。
[Ver. 11.11 以降]

【追加】

(3) 仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信 VLAN ポートと送信間隔

仮想 MAC アドレス学習用フレームは、マスタ状態の VLAN グループに所属する VLAN の VLAN ポート単位に、設定した送信間隔で送信します。設定した送信間隔で送信対象の VLAN ポートにフレームを送信できるように、1 秒間に送信するフレーム数（送信レート）が決定されます。送信レートは以下の算出式に従って、自動的に 100pps 以内で変動します。送信レートが 100pps 以上と算出される状態では、仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信しない VLAN ポートが存在するため注意してください。

・仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信レート算出式

送信レート(pps) ※= 送信対象の VLAN ポート数 ÷ 送信間隔(秒)

※最大値（100pps）を超える送信レートではフレームを送信しません。

例：送信対象の VLAN ポート数が 200(VLAN ポート)あり、
送信間隔を 5 秒に設定した場合、送信レートは 40pps になります。

(2) 14.6 GSRP使用時の注意事項【訂正】

「(16) 仮想 MAC アドレスの学習について (P361)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】

(16) 仮想 MAC アドレスの学習について

レイヤ 3 冗長切替機能使用時、GSRP で冗長化するデフォルトゲートウェイの MAC アドレスは仮想 MAC アドレスを使用します。これに対し、IP 中継および本装置が自発的に送信するパケット/フレームの送信元 MAC アドレスは、仮想 MAC アドレスにはなりません。装置 MAC アドレス、または VLAN ごとの MAC アドレスになります。

GSRP では、GSRP スイッチをデフォルトゲートウェイとする装置に仮想 MAC アドレスを学習させるため、GSRP 制御フレームを定期的に送信しています。GSRP 制御フレームは、送信元 MAC アドレスを仮想 MAC アドレスとした非 IP のユニキャストフレームです。

【訂正後】

(16) 仮想 MAC アドレスの学習について

レイヤ 3 冗長切替機能使用時、GSRP で冗長化するデフォルトゲートウェイの MAC アドレスは仮想 MAC アドレスを使用します。これに対し、IP 中継および本装置が自発的に送信するパケット/フレームの送信元 MAC アドレスは、仮想 MAC アドレスにはなりません。装置 MAC アドレス、または VLAN ごとの MAC アドレスになります。

GSRP では、GSRP スイッチをデフォルトゲートウェイとする装置に仮想 MAC アドレスを学習させるため、仮想 MAC アドレス学習用フレームを定期的に送信しています。仮想 MAC アドレス学習用フレームは、送信元 MAC アドレスを仮想 MAC アドレスとした非 IP のユニキャストフレームです。

15. GSRPの設定と運用 (P363~P375)

(1) 15.1.1 コンフィグレーションコマンド一覧【訂正】

「表 15-1 コンフィグレーションコマンド一覧 (P364)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 15-1 コンフィグレーションコマンド一覧

コマンド名	説明
advertise-holdtime	GSRP Advertise フレームの保持時間を設定します。
advertise-interval	GSRP Advertise フレームの送信間隔を設定します。
backup-lock	バックアップ固定機能を設定します。
flush-request-count	GSRP Flush request フレームの送信回数を設定します。
gsrp	GSRP を設定します。
gsrp-vlan	GSRP 管理 VLAN を設定します。
gsrp direct-link	ダイレクトリンクを設定します。
gsrp exception-port	GSRP 制御対象外ポートを設定します。
gsrp limit-control	GSRP VLAN グループ限定制御機能を設定します。
gsrp no-flush-port	GSRP Flush request フレームを送信しないポートを設定します。
gsrp reset-flush-port	ポートリセット機能を使用するポートを設定します。
layer3-redundancy	レイヤ 3 冗長切替機能を設定します。
no-neighbor-to-master	バックアップ（隣接不明）状態となったときの切り替え方法を設定します。
port-up-delay	リンク不安定時の連続切り替え防止機能を設定します。
reset-flush-time	ポートリセット機能使用時のリンクダウン時間を設定します。
selection-pattern	マスタ、バックアップの選択基準の優先順を設定します。
vlan-group disable	VLAN グループを無効にします。所属している VLAN は通信が停止します。
vlan-group priority	VLAN ごとの優先度を設定します。
vlan-group vlan	VLAN グループに所属する VLAN を設定します。
virtual-mac-learning-interval	仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信間隔を設定します。

追加 →

(2) 15. 1. 4 レイヤ3冗長切替機能の設定【訂正】

「[設定のポイント]および[コマンドによる設定] (P368)」を訂正します。[Ver. 11. 11以降]

【訂正内容】

[設定のポイント]

追加

本装置の GSRP でレイヤ 3 冗長切替機能を設定します。レイヤ 3 冗長切替機能は、GSRP グループ ID が 1~4 のときだけ使用できます。レイヤ 3 冗長切替機能使用時、GSRP 配下の装置は仮想 MAC アドレス学習用フレームを受信することで、GSRP の仮想 MAC アドレスを学習します。GSRP 配下の装置は、学習した MAC アドレスのエージングが発生すると、フラッディング状態になります。また、配下のネットワークに装置を追加した場合、その装置では仮想 MAC アドレス学習用フレームを受信するまでフラッディング状態になります。このフラッディング状態になる時間を考慮して、仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信間隔を設定してください。

レイヤ 3 冗長切替機能を使用するとき、VLAN の IP アドレスは対向の GSRP スイッチと同じ IP アドレスを設定します。IP アドレスの設定方法については、マニュアル「コンフィグレーションガイド Vol.2 15.9 VLAN インタフェース」を参照してください。また、レイヤ 3 冗長切替機能を使用する際には、上流ネットワークの切り替えに関する設定が必要です。詳細は「14.5.3 レイヤ 3 冗長切替機能での上流ネットワーク障害による切り替え」を参照してください。

[コマンドによる設定]

1. (config)# gsrp 1

GSRP コンフィグレーションモードに移行します。

2. (config-gsrp)# layer3-redundancy

レイヤ 3 冗長切替機能を設定します。

追加

3. (config-gsrp)# virtual-mac-learning-interval 100

仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信間隔を 100 秒に設定します。

(3) 15. 2. 2 GSRPの状態の確認【訂正】

「図 15-1 show gsrp detail コマンドの実行結果 (P374)」を訂正します。[Ver. 11. 11 以降]

【訂正内容】

図 15-1 show gsrp detail コマンドの実行結果

```
> show gsrp detail
Date 20XX/11/07 22:24:36 UTC

GSRP ID: 1
Local MAC Address      : 0012.e205.0000
Neighbor MAC Address   : 0012.e205.0011
Total VLAN Group Counts : 2
GSRP VLAN ID          : 105
Direct Port           : 0/10-11
Limit Control          : Off
GSRP Exception Port    : 0/1-5
No Neighbor To Master : manual
Backup Lock            : disable
Port Up Delay          : 0
Last Flush Receive Time : -
Forced Shift Time      : -
Layer 3 Redundancy     : On
Virtual MAC Learning   : Interval 120 (Output rate 30pps)
VLAN Port Counts       : Configuration 15, Capacity 3600
Virtual Link ID        : 100(VLAN ID : 20)

                Local           Neighbor
Advertise Hold Time : 5             5
Advertise Hold Timer : 4             -
Advertise Interval   : 1             1
Selection Pattern    : ports-priority-mac ports-priority-mac

VLAN Group ID      Local State      Neighbor State
1                   Backup           Master
8                   Master           Backup
>
```

追加

「図 15-2 show gsrp vlan-group コマンドの実行結果 (P374)」を訂正します。[Ver. 11. 11 以降]

【訂正内容】

図 15-2 show gsrp vlan-group コマンドの実行結果

```
> show gsrp 1 vlan-group 1
Date 20XX/11/07 22:25:13 UTC

GSRP ID: 1
```

```

Local MAC Address      : 0012.e205.0000
Neighbor MAC Address   : 0012.e205.0011
Total VLAN Group Counts : 1
Layer 3 Redundancy     : On
Virtual MAC Learning   : Interval 120 (Output rate 30pps)
VLAN Port Counts       : Configuration 15, Capacity 3600

```

追加 {

```

VLAN Group ID : 1
VLAN ID       : 110,200-210
Member Port    : 0/6-8
Last Transition : 20XX/11/07 22:20:11 (Master to Backup)
Transition by reason : Priority was lower than neighbor's
Master to Backup Counts : 4
Backup to Master Counts : 4
Virtual MAC Address : 0000.8758.1307

```

	Local	Neighbor
State	: Backup	Master
Acknowledged State	: Backup	-
Advertise Hold Timer	: 3	-
Priority	: 100	101
Active Ports	: 3	3
Up Ports	: 3	-

>

「図 15-3 show gsrp コマンドの実行例 (P375)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

図 15-3 show gsrp コマンドの実行例

```

> show gsrp
Date 20XX/11/07 22:28:38 UTC

GSRP ID: 10
Local MAC Address      : 0012.e205.0000
Neighbor MAC Address   : 0012.e205.0011
Total VLAN Group Counts : 2
Layer 3 Redundancy     : On
Virtual MAC Learning   : Interval 120 (Output rate 30pps)
VLAN Port Counts       : Configuration 15, Capacity 3600

```

追加 {

VLAN Group ID	Local State	Neighbor State
1	Backup	Master
8	Master	Backup

>

20. L2 ループ検知 (P429~P438)

(1) 20. 1. 2 動作仕様【追加】

「(4) 運用メッセージの表示について(P431)」を追加します。[Ver. 10.7 以降]

【追加】

(4) 運用メッセージの表示について

ループ障害検知時に表示する運用メッセージは、いずれかのポートで表示した場合、同じポートで続けて L2 ループ検知フレームを受信しても、前回の表示から 1 分間は表示しません。前回の表示から 1 分間経過すると、L2 ループ検知フレーム受信時にループ障害検知の運用メッセージを表示します。

27. ポートミラーリング (P539~P544)

(1) 27. 1. 2 ポートミラーリングの注意事項【追加】

「(2) ポートミラーリング使用時の注意事項 (P541~P542)」を追加します。

【追加】

- ・送信フレームのミラーリングでは、ポート帯域制御で廃棄されないフレームがミラーリングされなかったり、ポート帯域制御で廃棄されるフレームがミラーリングされたりすることがあります。

3. コンフィグレーションガイド Vol.3 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S003-H0) の訂正内容

1. IP・ARP・ICMPの解説 (P1~P18)

(1) 1.3.3 ARP 【訂正】

「表 1-4 ARP フレームのチェック内容 (P8)」を訂正します。[Ver. 11.11.B 以降]

【訂正前】

表 1-4 ARP フレームのチェック内容

ARP フレームフィールド	チェック内容	フレーム廃棄
：	：	：
送信元プロトコルアドレス	以下の値ではないこと <ul style="list-style-type: none"> • マルチキャストアドレス • 自装置プロトコルアドレスと同じ • 0.0.0.0 	○
：	：	：

【訂正後】

表 1-4 ARP フレームのチェック内容

ARP フレームフィールド	チェック内容	フレーム廃棄
：	：	：
送信元プロトコルアドレス	以下の値ではないこと <ul style="list-style-type: none"> • マルチキャストアドレス • 自装置プロトコルアドレスと同じ 	○
：	：	：

7. IPv4 ルーティングプロトコル概要 (P71~P95)

(1) 7.4.2 ロードバランス仕様【訂正】

「表 7-6 マルチパス経路の最大数 (P84)」の注釈を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】

注※ 3

マルチパス経路の最大数は IPv4 経路と IPv6 経路を合計した数です。

注※ 4

シングルパスの場合、経路の最大数はテーブルエントリ数の収容条件に従いますが、マルチパスに関する最大数は表の値となります。

【訂正後】

注※3

マルチパス経路の最大数は IPv4 経路と IPv6 経路を合計した数です。なお、ネクストホップの IP アドレスおよび VRF が一致するマルチパス経路は、同一マルチパス経路としてカウントされます。

注※4

経路の最大数はテーブルエントリ数の収容条件に従います。ただし、マルチパス経路の収容数は表の値に示す収容条件に従います。

(2) 7.4.3 ロードバランス使用時の注意事項【追加】

「注意事項 (P86)」に追加します。[Ver. 11.11 以降]

【追加】

9. 同一マルチパス経路は、経路変更時に複数のマルチパス経路になることがあります。また、障害等でマルチパス経路が切り替わった場合、新規に登録されるマルチパス経路は、変更前のマルチパス経路を残した状態のまま経路登録をおこないますので、一時的に新旧合計したマルチパス経路数のリソースを消費します。経路変更発生時に収容条件を超えてしまわないよう、余裕を持ったマルチパス経路数で運用を行ってください。

(3) 7.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認【訂正】

節タイトル (P89)を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】**7.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認****【訂正後】****7.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの状態確認**

「**図 7-14 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認 (P89)**」を訂正します。
[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】

図 7-14 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認

```
>show system
    :
    :
    Device resources
      Current selected swrt_table_resource: l3switch-2
      Current selected swrt_multicast_table: On
      Current selected unicast multipath number: 8
      :
      :
>
```

【訂正後】

図 7-14 本装置で取り扱うマルチパスの状態確認

```
>show system
    :
    :
    Device resources
      Current selected swrt_table_resource: l3switch-2
      Current selected swrt_multicast_table: On
      Current selected unicast multipath number: 8
      :
      Multipath table entry: current number=1 , max number=256
      MAC-Address table entry(Unit1) : current number=2 , max number=16384
      MAC-Address table entry(Unit2) : current number= , max number= -
      :
>
```

14. IPv4 マルチキャストの解説 (P289~P325)

(1) 14.4.2 IPv4 PIM-SM 【追加】

「(9)PIM-SM の付加機能 (P310)」を追加します。[Ver. 11.11 以降]

【追加】

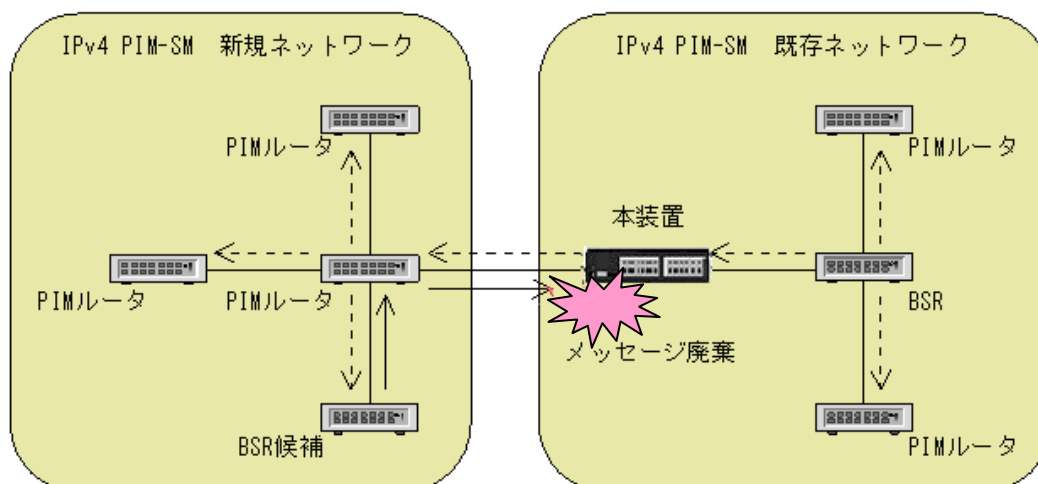
(9) PIM-SM の付加機能

(a) ブートストラップメッセージ受信抑止機能

運用中のマルチキャストネットワークに新しいネットワークを構築する場合、BSR 候補の設定を誤るとその BSR 候補が BSR となって、接続したマルチキャストネットワーク全体のマルチキャスト通信が停止するおそれがあります。

本機能は、新規ネットワークと接続するインタフェースにコンフィグレーションコマンド `ip pim accept-bootstrap` を設定することで、新規ネットワークでの誤った設定によって受信した PIM-Bootstrap メッセージを廃棄する機能です。この結果、運用中のマルチキャストネットワークを保護できます。本機能の動作を次の図に示します。

図 14-17 ブートストラップメッセージ受信抑止機能の動作



(凡例) ---➤ : 既存ネットワーク上のBSRが送信するPIM-Bootstrapメッセージ

——➤ : 新規ネットワーク上のBSR候補が送信するPIM-Bootstrapメッセージ

ネットワークの境界にある本装置では、新規ネットワーク上の BSR 候補が送信する PIM-Bootstrap メッセージを廃棄します。これによって、新規ネットワークの PIM-Bootstrap メッセージが既存ネットワーク内へ中継されるのを防ぎます。一方、既存ネットワーク上の BSR が送信する PIM-Bootstrap メッセージは新設ネットワークに中継されます。

15. IPv4 マルチキャストの設定と運用 (P327~P339)

(1) 15.1.1 コンフィグレーションコマンド一覧【訂正】

「表 15-1 コンフィグレーションコマンド一覧 (P328)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 15-1 コンフィグレーションコマンド一覧

コマンド名	説明
ip igmp group-limit	インタフェースで動作できる最大グループ数を指定します。
ip igmp router	該当インタフェースで IGMP を動作させます。
ip igmp source-limit	グループ参加時のソース最大数を指定します。
ip igmp ssm-map enable	IGMPv2/IGMPv3 (EXCLUDE モード) での IPv4 PIM-SSM 連携動作をさせるように設定します。
ip igmp ssm-map static	PIM-SSM が動作するグループアドレスとソースアドレスを設定します。
ip igmp static-group	IGMP グループへ静的に加入できるように設定します。
ip igmp version	IGMP バージョンを変更します。
ip multicast-routing	IPv4 マルチキャスト機能を使えるように設定します。
ip pim accept-bootstrap	該当インタフェースから受信したブートストラップメッセージの廃棄を設定します。
ip pim bsr-candidate	BSR を設定します。
ip pim deletion-delay-time	deletion delay time を変更します。
ip pim keep-alive-time	keep alive time を変更します。
ip pim max-interface	IPv4 PIM を動作させるインタフェースの最大数を変更します。
ip pim message-interval	join/prune のメッセージの送信間隔を変更します。
ip pim mroute-limit	マルチキャスト経路情報のエントリの最大数を指定します。
ip pim multiple-negative-cache	同一 (S,G) のネガティブキャッシュエントリを VLAN ごとに複数作成できるように指定します。
ip pim negative-cache-time	negative cache time を変更します。
ip pim query-interval	Hello メッセージの送信間隔を変更します。
ip pim register-checksum	PIM-Register メッセージのチェックサム範囲を変更します。
ip pim register-probe-time	register probe time を指定します。
ip pim rp-address	静的ランデブーポイントを設定します。
ip pim rp-candidate	ランデブーポイント候補を設定します。
ip pim rp-mapping-algorithm	ランデブーポイント選出アルゴリズムを指定します。
ip pim sparse-mode	IPv4 PIM-SM を設定します。
ip pim ssm	IPv4 PIM-SSM アドレスを設定します。

追加

22. IPv6 ルーティングプロトコル概要 (P403~P423)

(1) 22.4.2 ロードバランス仕様【訂正】

「表 22-6 マルチパス経路の最大数 (P411~P412)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】

表 22-6 マルチパス経路の最大数

コンフィグレーションで設定されている 最大マルチパス数 ^{※1}	装置で取り扱う マルチパスの最大数 ^{※2}	収容できるマルチパス経路の 最大数 ^{※2※3}
1~2	2	1024 ^{※4}
3~4	4	512
5~8	8	256
9~16, またはマルチパス未使用 ^{※5}	16	128

注※3

マルチパス経路の最大数は IPv4 経路と IPv6 経路を合計した数です。

注※4

シングルパスの場合、経路の最大数はテーブルエントリ数の収容条件に従いますが、マルチパスに関する最大数は表の値となります。

【訂正後】

表 22-6 マルチパス経路の最大数

コンフィグレーションで設定されている 最大マルチパス数 ^{※1}	装置で取り扱う マルチパスの最大数 ^{※2}	収容できるマルチパス経路の 最大数 ^{※2※3※4}
1~2	2	1024
3~4	4	512
5~8	8	256
9~16, またはマルチパス未使用 ^{※5}	16	128

注※3

マルチパス経路の最大数は IPv4 経路と IPv6 経路を合計した数です。なお、ネクストホップの IP アドレスおよび VRF が一致するマルチパス経路は、同一マルチパス経路としてカウントされます。

注※4

経路の最大数はテーブルエントリ数の収容条件に従います。ただし、マルチパス経路の収容数は表の値に示す収容条件に従います。

(2) 22.4.3 ロードバランス使用時の注意事項【追加】

「注意事項 (P414)」に追加します。[Ver. 11.11 以降]

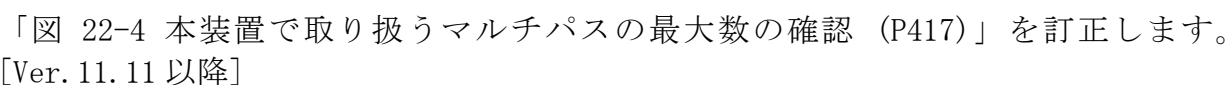
【追加】

9. 同一マルチパス経路は、経路変更時に複数のマルチパス経路になることがあります。また、障害等でマルチパス経路が切り替わった場合、新規に登録されるマルチパス経路は、変更前のマルチパス経路を残した状態のまま経路登録をおこないますので、一時的に新旧合計したマルチパス経路数のリソースを消費します。経路変更発生時に収容条件を超えてしまわないよう、余裕を持ったマルチパス経路数で運用を行ってください。

(3) 22.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認【訂正】

節タイトル (P417)を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】**22.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認****【訂正後】****22.6.1 本装置で取り扱うマルチパスの状態確認**

「 22-4 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認 (P417)」を訂正します。
[Ver. 11.11 以降]

【訂正前】

図 22-4 本装置で取り扱うマルチパスの最大数の確認

```
>show system
  :
  :
  Device resources
    Current selected swrt_table_resource: l3switch-2
    Current selected swrt_multicast_table: On
    Current selected unicast multipath number: 8
    :
    :
>
```

【訂正後】

図 22-4 本装置で取り扱うマルチパスの状態確認

```
>show system
  :
  :
  Device resources
    Current selected swrt_table_resource: l3switch-2
    Current selected swrt_multicast_table: On
    Current selected unicast multipath number: 8
    :
    Multipath table entry: current number=1 , max number=256
    MAC-Address table entry(Unit1) : current number=2 , max number=16384
    MAC-Address table entry(Unit2) : current number= , max number= -
    :
>
```

4. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S004-H0) の訂正内容

17. フロー検出モード/フロー動作 (P309~P315)

(1) flow action-change cos 【訂正】

「flow action-change cos (P310)」を訂正します。

【訂正内容】

flow action-change cos

装置に対して、QoS の優先度決定動作を変更します。

- 追加** → 本コマンドを設定することで、本装置宛てのフレームを優先度決定対象から外します。本コマンドは優先度決定の動作を変更するものであるため、必ず実運用を開始する最初の段階で設定してください。運用中の変更はお勧めしません。本コマンドを設定しない、または情報を削除したときはコマンド省略時の動作になります。

[入力形式]

情報の設定

flow action-change cos

情報の削除

no flow action-change cos

[入力モード]

(config)

[コマンド省略時の動作]

優先度決定の動作を変更しません。

- 追加** → 優先度決定の対象となるフレームは、本装置宛てのフレームと本装置が中継するフレームです。

[パラメータ]

なし

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

1. 優先度決定動作を変更する場合には、インタフェースに適用されている QoS のフロー検出条件・動作情報エントリをすべて削除してください。

[関連コマンド]

ip qos-flow-group

ipv6 qos-flow-group

mac qos-flow-group

22. Web認証 (P525～P555)

(1) コンフィグレーションコマンドと動作モードの対応【訂正】

「表 22-1 コンフィグレーションコマンドと Web 認証の動作モード(P526～P527)」を訂正します。[Ver. 11. 11. D 以降]

【変更前】

Web 認証のコンフィグレーションコマンドが設定できる、Web 認証の動作モードを次の表に示します。

表 22-1 コンフィグレーションコマンドと Web 認証の動作モード

コマンド名	Web 認証の動作モード		
	固定 VLAN モード	ダイナミック VLAN モード	レガシーモード
aaa accounting web-authentication default start-stop group radius	○	○	○
aaa authentication web-authentication default group radius	○	○	○
authentication arp-relay	○	○	—
authentication force-authorized enable	○	○	—
authentication force-authorized vlan	—	○	—
authentication ip access-group	○	○	—
authentication max-user	○	○	—
authentication max-user (interface)	○	○	—
authentication radius-server dead-interval	○	○	—
web-authentication auto-logout	—	○	○
web-authentication ip address	○	○	—
web-authentication jump-url	○	○	○
web-authentication logging enable	○	○	○
web-authentication logout ping tos-windows	○	—	—
web-authentication logout ping ttl	○	—	—
web-authentication logout polling count	○	—	—
web-authentication logout polling enable	○	—	—
web-authentication logout polling interval	○	—	—
web-authentication logout polling retry-interval	○	—	—
web-authentication max-timer	○	○	○
web-authentication max-user	—	○	○
web-authentication port	○	○	×
web-authentication redirect enable	○	○	—
web-authentication redirect-mode	○	○	—
web-authentication static-vlan max-user	○	—	—
web-authentication system-auth-control	○	○	○
web-authentication vlan	×	×	○
web-authentication web-port	○	○	○

【変更後】

Web 認証のコンフィグレーションコマンドが設定できる, Web 認証の動作モードを次の表に示します。

表 22-1 コンフィグレーションコマンドと Web 認証の動作モード

コマンド名	Web 認証の動作モード		
	固定 VLAN モード	ダイナミック VLAN モード	レガシーモード
aaa accounting web-authentication default start-stop group radius	○	○	○
aaa authentication web-authentication default group radius	○	○	○
authentication arp-relay	○	○	—
authentication force-authorized enable	○	○	—
authentication force-authorized vlan	—	○	—
authentication ip access-group	○	○	—
authentication max-user	○	○	—
authentication max-user (interface)	○	○	—
authentication radius-server dead-interval	○	○	—
web-authentication auto-logout	—	○	○
web-authentication connection-pool level	○	○	○
web-authentication ip address	○	○	—
web-authentication jump-url	○	○	○
web-authentication logging enable	○	○	○
web-authentication logout ping tos-windows	○	—	—
web-authentication logout ping ttl	○	—	—
web-authentication logout polling count	○	—	—
web-authentication logout polling enable	○	—	—
web-authentication logout polling interval	○	—	—
web-authentication logout polling retry-interval	○	—	—
web-authentication max-timer	○	○	○
web-authentication max-user	—	○	○
web-authentication port	○	○	×
web-authentication redirect enable	○	○	—
web-authentication redirect-mode	○	○	—
web-authentication ssl connection-timeout	○	○	○
web-authentication static-vlan max-user	○	—	—
web-authentication system-auth-control	○	○	○
web-authentication tcp retransmission initial-timeout	○	○	○
web-authentication vlan	×	×	○
web-authentication web-port	○	○	○

(2) *web-authentication connection-pool level* 【追加】

「web-authentication connection-pool level」を追加します。[Ver. 11.11.D 以降]

【追加】

web-authentication connection-pool level

HTTP のセッション接続のプールレベルを設定します。

[入力形式]

情報の設定・変更

```
web-authentication connection-pool level <level>
```

情報の削除

```
no web-authentication connection-pool level
```

[入力モード]

(config)

[パラメータ]

<level>

HTTP のセッション接続待ちの方式を選択します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲
1 ~ 9

[コマンド省略時の動作]

セッション接続待ち方式は 5 で動作します。

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、運用コマンド `restart web-authentication web-server` による Web サーバの再起動後に反映されます。

[注意事項]

- ・ level の設定値が小さい程接続の待ち時間が短くなりますが、負荷が高い場合、常に強制切断となり、web 認証画面が表示できない場合があります。
- ・ level の設定値が大きい程接続が強制切断しにくくなりますが、負荷が高い場合に web 認証画面を表示するまでの待ち時間が長くなる場合があります。

[関連コマンド]

```
web-authentication system-auth-control
```

(3) *web-authentication ssl connection-timeout* 【追加】

「web-authentication ssl connection-timeout」を追加します。[Ver.11.11.D 以降]

【追加】

web-authentication ssl connection-timeout

SSL のセッション成立のタイムアウト値を設定します。

【入力形式】

情報の設定・変更

```
web-authentication ssl connection-timeout <seconds>
```

情報の削除

```
no web-authentication ssl connection-timeout
```

【入力モード】

(config)

【パラメータ】

<seconds>

SSL のセッション成立待ちのタイムアウト時間を秒単位で設定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲
1 ～ 60 の値。

【コマンド省略時の動作】

SSL のセッション成立タイムアウトは 60 秒です。

【通信への影響】

なし

【設定値の反映契機】

設定値変更後、運用コマンド `restart web-authentication web-server` による Web サーバの再起動後に反映されます。

【注意事項】

本コンフィグレーションは全ての HTTPS 要求に適用されます。

負荷が高い場合、SSL の接続が頻繁的に切断される可能性があります。

実際のタイムアウト時間は本コンフィグレーションで指定された値より大きくなる可能性があります。

【関連コマンド】

```
web-authentication system-auth-control
```

(4) *web-authentication tcp-retransmission initial-timeout* 【追加】

「web-authentication tcp-retransmission initial-timeout」を追加します。
[Ver. 11.11.D 以降]

【追加】**web-authentication tcp-retransmission initial-timeout**

HTTP のパケット再送初期タイムアウト値を設定します。

[入力形式]

情報の設定・変更

```
web-authentication tcp-retransmission initial-timeout <seconds>
```

情報の削除

```
no web-authentication tcp-retransmission initial-timeout
```

[入力モード]

(config)

[パラメータ]**<seconds>**

HTTP パケット再送の初期タイムアウト時間を設定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません。
2. 値の設定範囲
1 ~ 6 の値。

[コマンド省略時の動作]

HTTP パケットの再送初期タイムアウトは 1 秒です。

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

本コンフィグレーションは全ての HTTP/HTTPS 要求に適用されます。

負荷が高い場合、実際の再送時間は本コンフィグレーションで指定された値より大きくなる可能性があります。

[関連コマンド]

```
web-authentication system-auth-control
```


27. GSRP (P615~P636)

(1) *virtual-mac-learning-interval* 【追加】

「virtual-mac-learning-interval」を追加します。[Ver. 11.11 以降]

【追加】

virtual-mac-learning-interval

レイヤ 3 冗長切替機能使用時に送信する、仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信間隔を設定します。

[入力形式]

情報の設定・変更

```
virtual-mac-learning-interval <seconds>
```

情報の削除

```
no virtual-mac-learning-interval
```

[入力モード]

(config-gsrp)

[パラメータ]

<seconds>

仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信間隔を秒単位で指定します。

1. 本パラメータ省略時の初期値
省略できません
2. 値の設定範囲
4~120

[コマンド省略時の動作]

仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信間隔は 120 秒です。

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに運用に反映されます。

[注意事項]

本コマンドによって送信間隔を短く設定した場合、仮想 MAC アドレス学習用フレームの送信対象 VLAN ポート数によっては、フレームを送信できない VLAN ポートができる可能性があります。その場合は、送信間隔を長く設定してください。

[関連コマンド]

layer3-redundancy

34. SNMP (P715~P750)

(1) snmp-server host 【訂正】

「[パラメータ] (P733~P739)」を訂正します。[Ver. 11.7 以降]

【訂正前】

frame_error_snd

フレーム受信エラー発生時のトラップを送信します。

frame_error_rcv

フレーム送信エラー発生時のトラップを送信します。

poe 【AX3630S】

電源供給状態が変化した場合、または装置の合計消費電力が閾値を超えた場合に、トラップを送信します。

【訂正後】

frame_error_snd

フレーム送信エラー発生時のトラップまたはインフォームを送信します。

frame_error_rcv

フレーム受信エラー発生時のトラップまたはインフォームを送信します。

poe 【AX3630S】

電源供給状態が変化した場合、または装置の合計消費電力が閾値を超えた場合に、トラップまたはインフォームを送信します。

(2) *snmp-server traps* 【訂正】

「[パラメータ] (P743～P744)」を訂正します。

【訂正前】

system_msg_trap_level <level>

プライベートトラップまたはインフォームのうち、システムメッセージトラップの送信レベル（10進数）を指定します。指定したレベル以上のイベントが発生した場合に、トラップが発行されます。本パラメータで指定したレベルによって発行するシステムメッセージトラップの概要を次の表に示します。

【訂正後】

system_msg_trap_level <level>

プライベートトラップまたはインフォームのうち、システムメッセージトラップの送信レベル（10進数）を指定します。指定したレベル以上のイベントが発生した場合に、トラップまたはインフォームが発行されます。本パラメータで指定したレベルによって発行するシステムメッセージトラップの概要を次の表に示します。

35. ログ出力機能 (P751～P765)

(1) *logging email-server* 【訂正】

「パラメータ (P757)」を訂正します。

【訂正前】

```
port <port number>
<途中省略>
2. 値の設定範囲
   0 ～ 65535
```

【訂正後】

```
port <port number>
<途中省略>
2. 値の設定範囲
   0 または 1 ～ 65535
   0 を指定した場合は本パラメータ省略時の初期値を使用します。
```

40. コンフィグレーション編集時のエラーメッセージ (P801~P829)

(1) 40. 1. 9 VLAN情報【訂正】

「表 40-9 VLAN のエラーメッセージ (P808)」を訂正します。

【訂正前】

表 40-9 VLAN のエラーメッセージ

メッセージ	内容
:	:
Relations between access-list and vlan mapping are inconsistent.	<p>検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを Outbound に設定しているため、ethernet インタフェースに Tag 変換を設定できません。</p> <p>Tag 変換と、検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。</p> <p>Tag 変換を削除するか、検出条件に VLAN ID を含まないアクセスリストを指定してください。</p>
Relations between access-list and vlan mapping are inconsistent.	<p>アクセスリストを Outbound に設定しているため、ethernet インタフェースに Tag 変換を設定できません。</p> <p>Tag 変換と、アクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。</p> <p>Tag 変換を削除するか、Outbound にアクセスリストを適用させないでください。</p>
:	:

【訂正後】

表 40-9 VLAN のエラーメッセージ

メッセージ	内容
:	:
Relations between access-list and vlan mapping are inconsistent.	<p>検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを ethernet インタフェースの Outbound に設定しているため、ethernet インタフェースに Tag 変換を設定できません。</p> <p>Tag 変換と、検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。</p> <p>Tag 変換を削除するか、検出条件に VLAN ID を含まないアクセスリストを指定してください。</p>
	<p>アクセスリストを VLAN インタフェースの Outbound に設定しているため、ethernet インタフェースに Tag 変換を設定できません。</p> <p>Tag 変換と、アクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。</p> <p>Tag 変換を削除するか、Outbound にアクセスリストを適用させないでください。</p>
:	:

(2) 40. 1. 15 アクセスリスト情報【訂正】

「表 40-15 アクセスリストのエラーメッセージ (P816)」を訂正します。

【訂正前】

表 40-15 アクセスリストのエラーメッセージ

メッセージ	内容
:	:
Relations between access-list and vlan mapping are inconsistent.	ethernet インタフェースに Tag 変換を設定しているため、検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを Outbound に設定できません。 Tag 変換と、検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。 Tag 変換を削除するか、検出条件に VLAN ID を含まないアクセスリストを指定してください。
Relations between access-list and vlan mapping are inconsistent.	ethernet インタフェースに Tag 変換を設定しているため、アクセスリストを Outbound に設定できません。 Tag 変換と、アクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。 Tag 変換を削除するか、Outbound にアクセスリストを適用させないでください。
:	:

【訂正後】

表 40-15 アクセスリストのエラーメッセージ

メッセージ	内容
:	:
Relations between access-list and vlan mapping are inconsistent.	ethernet インタフェースに Tag 変換を設定しているため、検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを ethernet インタフェースの Outbound に設定できません。 Tag 変換と、検出条件に VLAN ID を含むアクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。 Tag 変換を削除するか、検出条件に VLAN ID を含まないアクセスリストを指定してください。
	ethernet インタフェースに Tag 変換を設定しているため、アクセスリストを VLAN インタフェースの Outbound に設定できません。 Tag 変換と、アクセスリストを Outbound に適用させることは同時にできません。 Tag 変換を削除するか、Outbound にアクセスリストを適用させないでください。
:	:

5. コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol. 2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S005-H0) の訂正内容

15. IPv4 マルチキャストルーティングプロトコル情報 (P329~P364)

(1) *ip pim accept-bootstrap* 【追加】

「*ip pim accept-bootstrap*」を追加します。[Ver. 11.11 以降]

【追加】

ip pim accept-bootstrap

該当するインタフェースから受信したブートストラップメッセージを廃棄し、自ネットワークへの中継を抑止します。

[入力形式]

情報の設定・変更

```
no ip pim accept-bootstrap
```

情報の削除

```
ip pim accept-bootstrap
```

[入力モード]

(config-if)

[パラメータ]

なし

[コマンド省略時の動作]

インタフェースから受信したブートストラップメッセージを自ネットワーク内に中継します。

[通信への影響]

なし

[設定値の反映契機]

設定値変更後、すぐに反映されます。

[注意事項]

なし

[関連コマンド]

```
ip pim sparse-mode
```

6. 運用コマンドレファレンス Vol.1 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S006-H0) の訂正内容

3. 運用端末とリモート操作 (P17~P33)

(1) telnet 【追加】

「[注意事項] (P24)」に追加します。

【追加】

- ・本装置から他の装置へリモート接続した状態で、画面の文字列等を表示最中に運用端末より [Ctrl+C] 等の中断操作を行った際に、正しく動作しない場合があります。その場合は、エスケープキャラクター ^] (Ctrl+] を押下した後に quit を入力し、一度 telnet コマンドを終了してから再度リモート接続してください。

8. ソフトウェアバージョンと装置状態の確認 (P111~P167)

(1) show system 【訂正】

「図 8-7 リソース情報の表示例 (P129)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

図 8-7 リソース情報の表示例

```
> show system
Date 20XX/12/10 06:35:27 UTC
System: AX3630S-24T2X, OS-L3A Ver. 11.11 ← 訂正
Node : Name=System Name
:
:
:
Device resources
Current selected swrt_table_resource: l3switch-2
Current selected swrt_multicast_table : On
Current selected unicast multipath number: 8
IP routing entry :
  Unicast : current number=5 , max number=8192
  Multicast : current number=5 , max number=256
  ARP : current number=2 , max number=102
IPv6 routing entry :
  Unicast : current number=2 , max number=2048
  Multicast : current number=5 , max number=128
  NDP : current number=2 , max number=1024
Multipath table entry : current number=1 , max number=256 ← 追加
MAC-Address table entry(Unit1) : current number=2 , max number=16384
MAC-Address table entry(Unit2) : current number= - , max number= -
System Layer2 Table Mode : auto (mode=1)
Flow detection mode : layer3-1
```

Used resources for filter(Used/Max)

	MAC	IPv4	IPv6
Port 0/ 1- 8, 25-26 :	0/128	30/128	n/a
Port 0/ 9-16 :	0/128	24/128	n/a
Port 0/17-24 :	0/128	24/128	n/a
VLAN :	0/128	2/128	n/a

<省略>

「表 8-6 show system コマンド表示内容（リソース情報）（P131）」を訂正します。
[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 8-6 show system コマンド表示内容（リソース情報）

表示項目	表示内容	表示詳細情報
追加 { Multipath table entry	H/W に設定されているマルチパステータブルエントリ数	current number : 現在 H/W に設定されているマルチパステータブルエントリ数 max number : H/W に設定できる最大のマルチパステータブルエントリ数 注 Main Board が Fault 中の場合ーが表示されます。
MAC-Address table entry(Unit1)	H/W に設定されている MAC アドレステーブルエントリ数	current number : 現在 H/W に設定されている MAC アドレステーブルエントリ数 max number : H/W に設定できる最大の MAC アドレステーブルエントリ数 注 Main Board が Fault 中の場合ーが表示されます。
MAC-Address table entry(Unit2)	H/W に設定されている MAC アドレステーブルエントリ数	current number : 現在 H/W に設定されている MAC アドレステーブルエントリ数 max number : H/W に設定できる最大の MAC アドレステーブルエントリ数 注 Main Board が Fault 中の場合ーが表示されます。また装置に接続可能なポート数が 27 ポート未満のモデルの場合ーが表示されます。
System Layer2 Table Mode	レイヤ 2 ハードウェアテーブル検索方式	auto(mode=x) : 自動選択モードが設定したモード mode=x : コンフィグレーションコマンド system l2-table mode で設定した値 AX3640S の場合 : コンフィグレーションコマンド system l2-table mode を指定しない場合, x に 0 を表示する。 (詳細は「コンフィグレーションコマンドレファレンス Vol.1 装置の管理」を参照)
:	:	:

15. イーサネット (P209~P271)

(1) show interfaces (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T) 【訂正】

「表 15-3 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の detail 情報と統計情報表示 (P213~P216)」を訂正します。

【訂正内容】

表 15-3 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T の detail 情報と統計情報表示

表示項目	表示内容	
	詳細情報	意味
:	:	:
統計情報	:	:
受信系エラー 統計情報詳細 項目	CRC errors	正しいフレーム長で、かつ FCS チェックで検出された回数 ^{※5※6}
	Alignment	正しいフレーム長ではなく、かつ FCS チェックで検出された回数 ^{※5※7}
	Fragments	ショートフレーム（フレーム長 64 オクテット未満）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数 ^{※5※7}
	Jabber	ロングフレーム（最大フレーム長を超えたフレーム）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数 ^{※5} 0 固定
	Symbol errors	シンボルエラー発生回数
	Short frames	フレーム長未満の packets 受信回数 ^{※5}
	Long frames	フレーム長を超えた packets 受信回数 ^{※5}
	Error frames	エラーによって廃棄されたフレームの総数（Short frames, Fragments, CRC errors, Long frames, Symbol errors の合計値）
:	:	:

注※1 PoE 未対応ポートは表示しません。

注※2 表示する値が 10000 未満の場合、小数点を表示しません。

表示する値が 10000 以上の場合、表示単位が k になり、小数第一位までを表示します。また表示する値が 10000k 以上の場合には表示単位が M になり、小数第一位までを表示します。

注※3 ポート状態が active up, test 以外の場合は、常に off 表示になります。

注※4 ポート状態が active up, test 以外の場合は、常に-表示になります。

注※5 フレーム長とは MAC ヘッダから FCS までを示します。

フレームフォーマットは「コンフィグレーションガイド Vol.1 MAC および LLC 副層制御」を参照してください。

注※6 1000BASE-T で動作している場合、ロングフレーム受信時にもカウントされます。

追加 → 注※7 Alignment と Fragments は同じ値を表示します。

(2) show interfaces (1000BASE-X) 【訂正】

「表 15-11 1000BASE-X の detail 情報と統計情報表示 (P232)」を訂正します。

【訂正内容】

表 15-11 1000BASE-X の detail 情報と統計情報表示

表示項目	表示内容		
	詳細情報	意味	
:	:	:	
統計情報	:	:	
受信系エラー 統計情報詳細 項目	CRC errors	正しいフレーム長で、かつ FCS チェックで検出された回数 ^{※4※5}	
	Symbol errors	シンボルエラー発生回数	
	Fragments	ショートフレーム（フレーム長 64 オクテット未満）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数 ^{※4}	
	Jabber	ロングフレーム（最大フレーム長を超えたフレーム）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数 ^{※4} 0 固定	訂正
	Short frames	フレーム長未満の packets 受信回数 ^{※4}	
	Long frames	フレーム長を超えた packets 受信回数 ^{※4}	
	Error frames	エラーによって廃棄されたフレームの総数 (Short frames, Fragments, CRC errors, Long frames, Symbol errors の合計値)	訂正
:	:	:	

(3) show interfaces (10GBASE-R) 【訂正】

「表 15-15 10GBASE-R の detail 情報と統計情報表示 (P239)」を訂正します。

【訂正内容】

表 15-15 10GBASE-R の detail 情報と統計情報表示

表示項目	表示内容	
	詳細情報	意味
:	:	:
統計情報	:	:
受信系エラー 統計情報詳細 項目	CRC errors	正しいフレーム長で、かつ FCS チェックで検出された回数 ^{※4}
	Fragments	ショートフレーム（フレーム長 64 オクテット未満）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数 ^{※4}
	Jabber	ロングフレーム（最大フレーム長を超えたフレーム）で、かつ FCS エラー、または Alignment エラー発生回数 ^{※4}
	Symbol errors	シンボルエラー発生回数
	Short frames	フレーム長未満の packets 受信回数 ^{※4}
	Long frames	フレーム長を超えた packets 受信回数 ^{※4}
	Error frames	エラーによって廃棄されたフレームの総数 (Short frames, Fragments, CRC errors, Long frames, Symbol errors の合計値)
:	:	:

訂正

(4) show port 【訂正】

「表 15-24 廃棄パケット数の算出に使用する統計項目 (P254)」を訂正します。

【訂正前】

表 15-24 廃棄パケット数の算出に使用する統計項目

ポート	統計項目	
	送信	受信
イーサネット	Late collision Excessive collisions Excessive deferral	CRC errors Alignment Fragments Jabber Symbol errors Short frames Long frames

【訂正後】

表 15-24 廃棄パケット数の算出に使用する統計項目

ポート	統計項目	
	送信	受信
イーサネット	Late collision Excessive collisions Excessive deferral	CRC errors Alignment Fragments Symbol errors Short frames Long frames

(5) test interfaces 【追加】

「注意事項 (P261～P262)」に追加します。

【追加】

- ・ 10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 用 SFP でループバックコネクタループバックテストを行う場合は、オートネゴシエーションでの回線テストはできません。

(6) no test interfaces 【訂正】

「表 15-30 回線テスト (10BASE-T, 100BASE-TX, 1000BASE-T) 実行結果の表示内容 (P264)」を訂正します。

【訂正前】

注※3 ループコネクタが正しくささっている場合は、回線テスト用パケットが装置内で滞留している可能性があります。回線テストを実行する装置のパケット中継負荷が下がっていることを確認してから再実行してください。

【訂正後】

注※3 ループコネクタが正しくささっている場合およびモジュール内部ループバックテストの場合は、回線テスト用パケットが装置内で滞留している可能性があります。回線テストを実行する装置のパケット中継負荷が下がっていることを確認してから再実行してください。複数回回線テストを再実行してもカウントアップする場合、装置を交換してください。

29. GSRP (P611~P639)

(1) show gsrp 【訂正】

「図 29-1 GSRP サマリー情報の表示例 (P613)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

図 29-1 GSRP サマリー情報の表示例

```
> show gsrp
Date 20XX/07/14 12:00:00 UTC

GSRP ID: 3
Local MAC Address      : 0012.e2a8.2527
Neighbor MAC Address   : 0012.e2a8.2505
Total VLAN Group Counts : 3
Layer 3 Redundancy     : On
Virtual MAC Learning   : Interval 120 (Output Rate 30pps)
VLAN Port Counts       : Configuration 15, Capacity 3600

VLAN Group ID   Local State   Neighbor State
1                Backup        Master
2                (disable)    -
8                Master        -

>
```

追加



「表 29-1 GSRP サマリー情報の表示項目 (P613)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 29-1 GSRP サマリー情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Layer 3 Redundancy	レイヤ 3 冗長切替	Off : 設定なし On : レイヤ 3 冗長切替を適用中
Virtual MAC Learning	仮想 MAC アドレス学習用フレーム情報	—
Interval	送信間隔	4~120 (秒)
(Output Rate)	送信レート(packet/s)	仮想 MAC アドレス学習用フレームの現在の送信レートを表示します。 コンフィグレーションでレイヤ 3 冗長切替を設定していない場合、表示しません。
VLAN Port Counts	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信ポート数	コンフィグレーションでレイヤ 3 冗長切替を設定していない場合、表示しません。
Configuration	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信対象ポート数	仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信する VLAN ポート数*を表示します。 この値が、仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信許容ポート数よりも大きいと、その差分だけ仮想 MAC アドレス学習用フレームが送信できていないことを表します。
Capacity	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信許容ポート数	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信レートで送信可能な VLAN ポート数を表示します。
VLAN Group ID	VLAN グループ ID	1~64
:	:	:

追加

追加

注※ マスタ状態の VLAN グループに所属する VLAN のポートのうち、メンバポートの総和。チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で 1 ポートと数えます。

「図 29-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示例 (P614)」を訂正します。[Ver. 11. 11 以降]

【訂正内容】

図 29-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示例

```
> show gsrp 3 vlan-group 1, 2, 8
Date 20XX/07/14 12:00:00 UTC
```

```
GSRP ID: 3
```

```
Local MAC Address      : 0012. e2a8. 2527
```

```
Neighbor MAC Address  : 0012. e2a8. 2505
```

```
Total VLAN Group Counts : 3
```

```
Layer 3 Redundancy    : On
```

追加 { Virtual MAC Learning : Interval 120 (Output Rate 30pps)

```
VLAN Port Counts      : Configuration 15, Capacity 3600
```

```
VLAN Group ID : 1
```

```
VLAN ID          : 110, 200-2169
```

```
Member Port      : 0/6-8
```

```
Active Port      : 0/6-8
```

```
Last Transition  : 20XX/07/14 10:00:00 (Master to Backup)
```

```
Transition by reason : Priority was lower than neighbor's
```

```
Master to Backup Counts : 4
```

```
Backup to Master Counts : 4
```

```
Virtual MAC Address : 0000. 8758. 1387
```

<省略>

「表 29-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示項目 (P615~P617)」を訂正します。
[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 29-2 VLAN グループ ID 指定時の GSRP 情報表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Layer 3 Redundancy	レイヤ 3 冗長切替	Off : 設定なし On : レイヤ 3 冗長切替を適用中
Virtual MAC Learning	仮想 MAC アドレス学習用フレーム情報	—
Interval (Output Rate)	送信間隔 送信レート(packet/s)	4~120 (秒) 仮想 MAC アドレス学習用フレームの現在の送信レートを表示します。 コンフィグレーションでレイヤ 3 冗長切替を設定していない場合、表示しません。
VLAN Port Counts Configuration	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信ポート数 仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信対象ポート数	コンフィグレーションでレイヤ 3 冗長切替を設定していない場合、表示しません。 仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信する VLAN ポート数*を表示します。 この値が、仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信許容ポート数よりも大きいと、その差分だけ仮想 MAC アドレス学習用フレームが送信できていないことを表します。
Capacity	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信許容ポート数	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信レートで送信可能な VLAN ポート数を表示します。
VLAN Group ID	VLAN グループ ID	1~64
VLAN ID	VLAN ID	1~4094 Ring Protocol との併用時に所属外となった VLAN は含めません。
Member Port	VLAN グループに設定されている VLAN に属しているポート	VLAN グループに該当するポートがない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。 チャンネルグループは集約ポートのリストに展開して表示します。←訂正
Active Port	アクティブポート	VLAN グループに該当するポートがない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。 チャンネルグループは集約ポートのリストに展開して表示します。←訂正 なお、リングポートはアクティブポートに含めません。
Last Transition	最後に状態遷移した時刻	yyyy/mm/dd hh:mm:ss 年/月/日 時:分:秒() 内は状態遷移を示します。 一度も状態遷移していない場合、または disable 状態の場合は "-" を表示します。
:	:	:
Priority	優先度情報	0~255 (値が大きいほど優先度が高くなります。)

追加

Active Ports	アクティブポート数	0～装置最大ポート数 チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で1ポートと数えます。 disable 状態の場合は "-" を表示します。 なお、リングポートはアクティブポートに含めません。	← 訂正
Up Ports	VLAN グループに設定されている VLAN に属しているポート内で実際にアップしているポート数	0～装置最大ポート数 チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で1ポートと数えます。 disable 状態の場合は "-" を表示します。 (対向装置情報では "-" を表示します。)	← 訂正

追加 { 注※ マスタ状態の VLAN グループに所属する VLAN のポートのうち、メンバポートの総和。チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で1ポートと数えます。

「図 29-3 GSRP 詳細情報の表示例 (P618)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

図 29-3 GSRP 詳細情報の表示例

```
> show gsrp detail
Date 20XX/11/07 12:00:00 UTC

GSRP ID: 3
Local MAC Address      : 0012.e2a8.2527
Neighbor MAC Address   : 0012.e2a8.2505
Total VLAN Group Counts : 3
GSRP VLAN ID          : 105
Direct Port            : 0/10-11
Limit Control          : Off
GSRP Exception Port    : 0/1-5
No Neighbor To Master  : manual
Backup Lock            : disable
Port Up Delay          : 0
Last Flush Receive Time : -
Forced Shift Time      : -
Layer 3 Redundancy     : On
Virtual MAC Learning   : Interval 120 (Output Rate 30pps)
VLAN Port Counts       : Configuration 15, Capacity 3600
Virtual Link ID        : 100(VLAN ID : 20)

                                Local           Neighbor
Advertise Hold Time      : 5             5
Advertise Hold Timer     : 4             -
Advertise Interval       : 1             1
Selection Pattern        : ports-priority-mac ports-priority-mac

VLAN Group ID   Local State   Neighbor State
1                Backup        Master
2                (disable)    -
8                Master       -
>
```

追加 {

「表 29-3 GSRP 詳細情報の表示項目 (P619)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 29-3 GSRP 詳細情報の表示項目

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
Layer 3 Redundancy	レイヤ 3 冗長切替	Off : 設定なし On : レイヤ 3 冗長切替を適用中
Virtual MAC Learning	仮想 MAC アドレス学習用フレーム情報	—
Interval	送信間隔	4~120 (秒)
(Output Rate)	送信レート(packet/s)	仮想 MAC アドレス学習用フレームの現在の送信レートを表示します。 コンフィグレーションでレイヤ 3 冗長切替を設定していない場合、表示しません。
VLAN Port Counts	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信ポート数	コンフィグレーションでレイヤ 3 冗長切替を設定していない場合、表示しません。
Configuration	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信対象ポート数	仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信する VLAN ポート数*を表示します。 この値が、仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信許容ポート数よりも大きいと、その差分だけ仮想 MAC アドレス学習用フレームが送信できていないことを表します。
Capacity	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信許容ポート数	仮想 MAC アドレス学習用フレーム送信レートで送信可能な VLAN ポート数を表示します。
Virtual Link ID	仮想リンク ID	1~250 仮想リンク ID を設定していない場合は "-" を表示します。 括弧内は仮想リンク VLAN ID を示します。
:	:	:

追加

追加

注※ マスタ状態の VLAN グループに所属する VLAN のポートのうち、メンバポートの総和。チャンネルグループの場合は、チャンネルグループ単位で 1 ポートと数えます。

「表 29-4 ポート指定時の GSRP 情報の表示内容 (P621)」を訂正します。[Ver. 11. 11 以降]

【訂正内容】

表 29-4 ポート指定時の GSRP 情報の表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。←訂正
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。←訂正
Discard Fram	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指します。) 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。←訂正

「表 29-5 ポート指定時の GSRP 情報の詳細表示内容 (P622)」を訂正します。[Ver. 11. 11 以降]

【訂正内容】

表 29-5 ポート指定時の GSRP 情報の詳細表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
TxFram	送信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。←訂正
RxFram	受信した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~4294967295 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。←訂正
Discard Fram	受信時に廃棄した GSRP Advertise フレーム数 (統計情報)	0~262140 (最大値は各廃棄要因の最大数 65535×要素数 4 を指します。) 同一チャネルグループのポートの場合、同じ値になります。←訂正
:	:	:

33. L2 ループ検知 (P703~P717)

(1) show loop-detection logging 【訂正】

「実行例 (P710)」を訂正します。[Ver. 10.7 以降]

【訂正内容】

[実行例]

L2 ループ検知フレームの受信ログ情報を表示します。

図 33-3 L2 ループ検知フレームの受信ログ情報の表示

```
> show loop-detection logging
Date 20XX/04/21 12:10:10 UTC
20XX/04/21 12:10:10 0/1 Source: 0/3 Vlan: 4090 Inactive
20XX/04/21 12:10:09 0/1 Source: 0/3 Vlan: 1
20XX/04/21 12:10:08 0/1 Source: 0/3 Vlan: 4090
20XX/04/21 12:10:07 0/3 Source: 0/1 Vlan: 4090
20XX/04/21 12:10:06 0/3 Source: 0/1 Vlan: 4090
削除 → 20XX/04/20 05:10:10 CH:32 Source: CH:32 Vlan: 4090 Uplink Inactive
20XX/04/10 04:10:10 0/20 Source: CH:32 Vlan: 4090
20XX/03/21 03:10:10 0/20 Source: 0/12 Vlan: 4095
20XX/03/21 02:12:50 0/20 Source: 0/12 Vlan: 4095
20XX/03/21 02:12:10 0/20 Source: 0/12 Vlan: 4095
20XX/03/21 02:12:09 0/20 Source: 0/12 Vlan: 12
20XX/09/05 20:00:00 CH:32 Source: 0/12 Vlan: 12 Uplink
20XX/09/05 00:00:00 CH:32 Source: 0/12 Vlan: 12 Uplink
>
```

7. 運用コマンドレファレンス Vol.2 (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S007-H0) の訂正内容

7. IPv4 マルチキャストルーティングプロトコル (P193~P232)

(1) show ip pim interface 【訂正】

「図 7-3 PIM-SM または PIM-SSM インタフェース状態の表示 (P201)」を訂正します。
[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

図 7-3 PIM-SM または PIM-SSM インタフェース状態の表示

```
> show ip pim interface
Date 20XX/12/10 15:08:10 UTC
Address          Interface  Component  Vif    Nbr    Hello  DR          Notice ← 訂正
                  Count    Intvl    Address
192.10.10.1     VLAN0011  PIM-SM     1       4      30     This system B } 訂正
192.10.20.1     VLAN0012  PIM-SM     9      10     30     192.10.20.2 B
192.10.30.1     VLAN0014  PIM-SM    10     11     30     This system

>
> show ip pim interface detail
Date 20XX/12/10 15:09:10 UTC
Address          Interface  Component  Vif    Nbr    Hello  GenID      DR          Notice ← 訂正
                  Count    Intvl    Address
192.10.10.1     VLAN0011  PIM-SM     1       4      30     3503c645   This system B } 訂正
192.10.20.1     VLAN0012  PIM-SM     9      10     30     42278152   192.10.20.2 B
192.10.30.1     VLAN0014  PIM-SM    10     11     30     29ba460b   This system

>
```

「表 7-5 show ip pim interface 表示内容 (P202)」を訂正します。[Ver. 11.11 以降]

【訂正内容】

表 7-5 show ip pim interface 表示内容

表示項目	意味	表示詳細情報
:	:	:
DR Address	DR のアドレス	該当インタフェースがダウン状態の場合は "-" と表示します。 本装置が DR の場合は "This system" を表示します。
Notice	警告情報	B: コンフィグレーションコマンド no ip pim accept-bootstrap 指定による PIM-Bootstrap メッセージ廃棄 本情報は事象発生後、PIM-Bootstrap メッセージの保持期間 (Bootstrap-Timeout) が経過するまで、本コマンド実行時に表示します。

追加

9. IPv6・NDP・ICMPv6 (P253～P285)

(1) traceroute ipv6 【訂正】

「numeric パラメータ (P283)」を訂正します。

【訂正前】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名と IPv6 アドレスではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

本パラメータ省略時の動作

ホストの IPv6 アドレスを名前に変換して表示します。

【訂正後】

numeric

ゲートウェイのアドレスをホスト名ではなく、IPv6 アドレスだけで表示します。

本パラメータ省略時の動作

ホストの IPv6 アドレスを名前に変換して表示します。

8. メッセージ・ログレファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S008-H0) の訂正内容

3. 装置関連の障害およびイベント情報 (P81~P174)

(1) 3.3.4 イベント発生部位=VLAN (GSRP) 【追加】

「表 3-6 イベント発生部位=VLAN (GSRP) の装置関連の障害およびイベント情報 (P113)」に追加します。[Ver. 11.11 以降]

【追加】

表 3-6 イベント発生部位=VLAN (GSRP) の装置関連の障害およびイベント情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
18	E4	VLAN	20130020	0700	GSRP : Virtual MAC address learning frame cannot be sent in the port where capacity was exceeded.
<p>仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信できる VLAN ポート数が収容条件を超えています。収容条件を超えた VLAN ポートで制御フレームを送信できません。 [メッセージテキストの表示説明] なし。 [対応] 仮想 MAC アドレス学習用フレームを送信するポート数を減らしてください。または送信間隔を長く設定してください。</p>					

(2) 3.3.5 イベント発生部位 = VLAN (L2 ループ検知) 【訂正】

「表 3-7 イベント発生部位=VLAN (L2 ループ検知) の装置関連の障害およびイベント情報 (P114~P115)」を訂正します。[Ver. 10.7 以降]

【訂正内容】

表 3-7 イベント発生部位=VLAN (L2 ループ検知) の装置関連の障害およびイベント情報

項番	イベントレベル	イベント発生部位	メッセージ識別子	付加情報上位 4 桁	メッセージテキスト
内容					
(省略)					
5	E4	VLAN	20800005	0700	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
追加	<p>ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャンネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。</p>				
6	E4	VLAN	20800006	0700	L2LD : Port(<nif no.>/<port no.>) loop detection from ChGr(<channel group number>).
追加	<p>ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャンネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。</p>				
7	E4	VLAN	20800007	0700	L2LD : ChGr(<channel group number>) loop detection from port(<nif no.>/<port no.>).
追加	<p>ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャンネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <channel group number> チャンネルグループ番号 <nif no.>/<port no.> NIF 番号/ポート番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。</p>				
8	E4	VLAN	20800008	0700	L2LD : ChGr(<channel group number>) loop detection from ChGr(<channel group number>).
追加	<p>ループ障害を検出しました。 ループ障害検出ログ(20800005~20800008)の出力後 1 分間は、同一ポートあるいはチャンネルグループでループ障害検出ログを出力しません。 [メッセージテキストの表示説明] <channel group number> チャンネルグループ番号 [対応] ネットワーク構成を確認してください。</p>				
(省略)					

9. MIBレファレンス (Ver. 11.10 対応版) (AX36S-S009-H0) の訂正内容

2. 標準MIB (RFC準拠およびIETFドラフトMIB) (P17~P166)

(1) 2.2.1 interfaces グループ(イーサネットの場合) 【訂正】

「表 2-2 interfaces グループの実装仕様(イーサネットの場合) (P23)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-2 interfaces グループの実装仕様 (イーサネットの場合)

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
23	ifOutErrors {ifEntry 20}	R/O	[規格] エラーが原因で送信できなかったパケットの数。 [実装] インタフェースによる。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートの ifIndex の場合：規格に同じ。 • VLAN の ifIndex の場合：0 固定。 • リンクアグリゲーションの ifIndex の場合：規格に同じ。 	●

【訂正後】

表 2-2 interfaces グループの実装仕様 (イーサネットの場合)

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
23	ifOutErrors {ifEntry 20}	R/O	[規格] エラーが原因で送信できなかったパケットの数。 [実装] インタフェースによる。 <ul style="list-style-type: none"> • ポートの ifIndex の場合：gigabitethernet の場合、規格に同じ。tengigabitethernet の場合、0 固定 • VLAN の ifIndex の場合：0 固定。 • リンクアグリゲーションの ifIndex の場合：規格に同じ。 	●

(2) 2.12.1 Ethernet Statistics グループ【訂正】

「表 2-33 Ethernet Statistics グループの実装仕様 (P64)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-33 Ethernet Statistics グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
15	etherStatsCollisions {etherStatsEntry 13}	R/O	[規格] コリジョン数。 [実装] 規格に同じ。	●

【訂正後】

表 2-33 Ethernet Statistics グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
15	etherStatsCollisions {etherStatsEntry 13}	R/O	[規格] コリジョン数。 [実装] gigabitethernet:規格に同じ tengigabitethernet:0 固定	●

(3) 2.12.3 Ethernet History グループ【訂正】

「表 2-35 Ethernet History グループの実装仕様 (P67)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-35 Ethernet History グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
16	etherHistoryCollisions {etherHistoryEntry 14}	R/O	[規格] 特定時間内でのコリジョン数。 [実装] 規格に同じ。	●

【訂正後】

表 2-35 Ethernet History グループの実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
16	etherHistoryCollisions {etherHistoryEntry 14}	R/O	[規格] 特定時間内でのコリジョン数。 [実装] gigabitethernet:規格に同じ tengigabitethernet:0 固定	●

(4) 2. 18 powerEthernetMIB グループ (Power Ethernet MIB) 【AX3630S】 【訂正】

「表 2-54 pethObjects の実装仕様 (P106)」を訂正します。

【訂正前】

表 2-54 pethObjects の実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
2	pethPsePortEntry {pethPsePortTable 1}	NA	[規格] 給電装置の各ポート情報のリスト。 INDEX { pethPsePortGroupIndex } [実装] 規格に同じ。	●

【訂正後】

表 2-54 pethObjects の実装仕様

項番	オブジェクト識別子	アクセス	実装仕様	実装有無
2	pethPsePortEntry {pethPsePortTable 1}	NA	[規格] 給電装置の各ポート情報のリスト。 INDEX { pethPsePortGroupIndex, pethPsePortIndex } [実装] 規格に同じ。	●